



人権感覚の醸成は言葉遣いから

校長 伊藤 栄司

先日、通勤電車の中でドア付近に立って本を読んでいたところ、駅に到着したタイミングで「邪魔だ。どけ。」と後ろから聞こえてきました。通行の妨げになっていたのだらうと思い慌てて降りると、その人はすごい勢いで改札口に向かっていきました。通行を妨げていた自分が良くなかったのだと思いますが、もう少し言い方があるのではないかと感じる出来事でした。混んだプラットホームを足早に去っていく姿を見ながら、腹が立つというよりは気の毒な人だと思う気持ちが強くなりました。大人になっても見ず知らずの他人に対して、乱暴な言葉をぶつけることしかできない人は、どのような生活を送ってきたのだらうと悲しく思いました。

いじめも最初は言葉から

改札を出て学校へ向かう途中、ふと、お茶の水小学校では大丈夫であろうかと心配になってきました。日頃、担任が言葉遣いについては指導しているのできっと気を付けてくれていると思っていました。しかし、改めて休み時間等に耳を澄ませていると「早くしろよ。」「こっちにこい。」「何やっているんだ」等の乱暴な言葉が聞こえてきてとても残念な気持ちになりました。

子どもたちの間で起こる様々なトラブルや喧嘩、いじめの問題も最初は「言葉」の使い方や選び方から始まります。「どけよ。」ではなく、「通ります。」「通してください。」で十分に意味は通じるので、あえてトラブルになりそうな言葉は使わない、選ばないのが大勢の人の中で気持ちよく過ごすための重要な力です。しかし、「どけよ」のように強く命令する口調は、自分が偉くなったような気分になったり、かっこいいと勘違いしたりして周りのことは気にせず口にする子どもが一定数見られます。

名前には「さん」をつける

また、言葉遣いの他にも気になったのが名前の呼び捨てです。名字や名前の呼び捨ては温かく豊かな人間関係を築く時には大きな障害になります。先祖代々受け継がれてきた大事な苗字、我が子の幸せのために何日もかけて考えた名前を呼び捨てにして良いはずはありません。また、その人自身を表す大切な名前に対し、変な呼び方をしたり、あだ名をつけたりすることもいじめにつながる危険な行為です。

呼び捨てやあだ名は親近感があり、親しみがわくので良いとする論争が数年前にありました。インタビューやアンケートでは肯定的な意見が多かったように思いますが、中には、「変なあだ名をつけられて辛かった」「呼び捨てにされて嫌だった」との意見もありました。肯定的な意見を述べる方は、「本人も喜んでいる」や「呼んでいいと言われた」と反論していましたが、本心からそう思っていたかどうかはあだ名をつけられた人にしかわかりません。実際には、「楽しい雰囲気壊したくない」や「怖いから反論しない」と気遣い我慢を強いられていることが多いのです。

人権週間(12月4日～10日)

昭和23年(1948年)12月10日、国際連合第3回総会において、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。とても画期的な宣言だったので、採択日である12月10日を「人権デー(Human Rights Day)」と定めたことが始まりです。

正しい言葉遣いをすることや「〇〇さん」と名前を呼ぶだけでも相手を尊重し温かい雰囲気を作ることができます。一人一人が人権問題を自分のこととして捉え、互いの人権を尊重し合う第一歩として言葉遣いに気を付ける習慣を身に付けられるよう、全校で指導していきます。